

学校教育目標	○ともだち いっぱい かがやく こ (知) 学ぶことの意義や楽しさを感じながら主体的に学び続ける子どもを育てます (徳) 自他のよさを認め合い、成長する子どもを育てます (体) 運動に親しむ習慣を身に付け、心身共にたくましく生きる子どもを育てます (公) 地域とつながり、自分たちのまち横浜、都筑を大切にすることを育てます (開) 様々な価値観を認め共に生きようとする子どもを育てます					
	学校概要	創立 26 周年	学校長 鈴木 智彦	副校長 山谷 浩司	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 4
児童生徒数: 628 人		主な関係校: 中川中学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中川中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○主体的に考え学び続ける力 ○他者と協働し、解決していく力 ○持続可能なよりよい社会や新たな価値を創造する力	中川中学校 中川小学校 南山田小学校 牛久保小学校	○まちに住む一員として、地域とのつながりを大切にすること ○自分を大切にするとともに、他者への心遣いができる子 ○自分の思いを表現しながら豊かな学び合いができる子 ・6年生による中学校訪問、中学生との交流を継続的にいきます。 ・授業を伴いながら、中学校との指導内容、指導方法の連携を図ります。 ・教師間の交流、情報交換を積極的に行います。

中期取組目標	○子ども一人ひとりが主役の学校を創造し、健康で楽しく安心して過ごせる魅力ある学校づくりに努め、自ら考え進んで行動する子どもを育む。 ○一人ひとりが自己有用感を育み、他者と協働し、多様な価値観を認め、支え合い、共に学ぶ児童の育成を目指す。 ○家庭地域との連携を深め、地域の教育力の活用やさまざまな交流により、地域に開かれた特色ある学校づくりに努め、地域(横浜・都筑)や社会に関心をもち、共に共生してゆく意識を育む。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 重点研究推進部会	①タブレット学習の見直しをもって粘り強く取り組み、試行錯誤を重ねられる学習環境を設定する。問題について対話し共有することで、高め合うことができるような必然性のある課題を設定する。タブレット端末を効果的に利活用する。②重点研究テーマを「各教科における効果的なiPadの活用～主体的・対話的に学び合う探究的な子どもの姿を目指して～」とする。
徳 豊かな心 担当 学習評価部会	①感染予防対策をしながら、できる範囲の異学年交流を行い、思いやりや共感する心をもち、互いに支え合う態度を育てる。②運動会等の学校行事を通して、豊かな感性や情操を養い、表現の喜びを味わいながら自己肯定感を高める。③人権週間では発達段階に応じた取組を行い、相手の立場や人権を尊重する大切さを理解し、実践への意欲をもたせる。
体 健やかな体 担当 健康安全部会	①感染予防対策をしながら、体力向上1校1実践である短縄・長縄の年間計画を立て、児童が継続して練習に取り組むことができるようにする。②心身の健康を保持増進するため、体力テストの結果や食育の場、学校保健委員会において家庭と連携する。
公開 地域連携 担当 教務	①地域と共に歩む学校を目指し、PTAや地域(見守りタイ、学習協力者等)の協力を得ながら、社会に開かれた教育課程の実施や安心安全な学校づくりを行う。②本校の教育活動を理解していただくために、南山田っ子懇話会、学校運営協議会、学校たよりなどを通して、同じ方向を向いて子どもを育てるように働きかける。
いじめへの対応 担当 児童支援部会	①毎週金曜日に「いじめ防止対策委員会」を実施し、児童指導の状況を全職員が共有し、未然防止・早期対応に努める。②児童一人ひとりが気持ちよく居心地の良い学級、学年、学校をつくるため、引き続きYPアセスメントを基に児童の様子をしっかりと把握し、2回の子ども面談で児童の思いを受け止める。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 校長	①面談によるそれぞれの目標、進捗の確認及び勤務時間に合った適切な業務量への見直しと自らの働き方に関する意識付けを行う。②教職員が、学校の課題にそれぞれの立場で向き合い関わられるよう、既存の組織を見直し、役割を明確化した新たな組織の再編を進める。
児童指導 担当 児童支援部会	①児童が安心してよりよい生活を送れるように、学校スタンダードや生活目標を活用し、すべての教職員が同じ方向性で指導する。②個の違いを認め合えるユニバーサルデザインを進めたり、個に応じた配慮をしていくインクルーシブ教育をしたりして、居心地の良い学級づくり、学年づくり、学校づくりに視野を広げ取り組んでいく。
「学びの場」のつながり 担当 学習評価部会	①感染予防対策を行いながら、小中一貫カリキュラムによる9年間を通じた資質・能力の育成を行うため、小中合同研修を実施する。②6年生が中学校の様子を知り、スムーズな進級ができるようにする機会を設定する。③感染予防対策を行いながら、幼保小連携の研修を行い、協同してスタートカリキュラムを行う。①～③を新カリキュラム・年間計画に入れ、検証を行う。
特別支援教育 担当 児童支援部会	①学習における困難さを感じている児童の理解を教職員全体で行い、必要な指導内容を工夫し支援を行う。また、取り出しができる体制づくりに努める。②教職員で交流及び共同学習のねらいや実践できることを共通理解しながら、一般級と個別級のつながりをより大切にし深めていく。
担当	